令和8年10月29日
令和8年度第3回
医薬品等安全対策部会
資料5－1－3

感染症評価報告感染症別文献一覧表（2026/5/1～2026/7/31）

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	ウイルス感染	Nature Microbiology. 11(2026)892-906	問題点：中国において、水生動物由来ウイルス（Covert Mortality Nodavirus：CMNV）による初めてのヒト感染例が報告された。 【概要】新たにヒトにおいて感染することが認められた感染症に関する報告 気候変動と人間の活動により、野生生物からのウイルス・スピルオーバーのリスクが増大し、ヒトの健康に新たな脅威となっている。持続性高眼圧性ウイルス性前部ぶどう膜炎(POH-VAU)と呼ばれるヒト眼疾患が、近年新たに出現しているが、病因は不明であった。POH-VAUが水生動物由来ウイルスであるCMNVと関連していることを報告する。POH-VAUは、持続性眼圧亢進と薬物療法への反応の欠如を特徴とする疾患であり、従来知られている単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス等の既知ウイルスによって引き起こされるが、POH-VAU患者はこれらのウイルスに対して陰性であるか、又はウイルス量が低いことがわかっている。 本研究では、POH-VAU患者70例を対象に、虹彩組織及び血清検体を用いた解析を実施し、電子顕微鏡によりCMNV様ウイルス粒子（直径約25 nm）を虹彩組織内に確認するとともに、抗CMNV抗体による免疫金標識、質量分析によるCMNV由来RdRpタンパク質の同定を行った。また、qPCR解析では、眼圧が高いPOH-VAU患者ほどCMNV陽性率及びウイルス量が高いことが示され、CMNV量と眼圧との間に有意な正の相関が認められた（B=3.05、P<0.001）。さらに、CMNV特異的IgG抗体の上昇がPOH-VAU患者でのみ確認され、疾患エピソード回数が多い患者ほど抗体価が高い傾向が示された。一方、健常者及びPOH-VAU非該当患者では有意な抗体上昇は認められなかった。これにより、POH-VAU患者における血清学的転換が示された。 疫学調査では、水生動物への曝露頻度、重度曝露の回数、曝露の重症度がPOH-VAU発症リスクの増加と有意に関連していた。特に、保護具を使用しない水生動物の処理が主要な曝露様式であった（54.3%）。動物実験においては、CMNV感染マウスで眼圧上昇が示され、角膜、虹彩及び網膜における病理学的障害及びCMNV陽性シグナルが確認された。また、ヒト角膜上皮細胞を含む哺乳類細胞への感染及び細胞死誘導もin vitro実験で示された。 加えて、CMNVは世界各地の養殖及び野生の水生動物から高頻度に検出され、特定地域に限定されない広範な分布を示した。動物からヒトへの感染のリスクが世界的であること、新興の水生動物由来ウイルスであるCMNVがヒトの眼疾患POH-VAUの原因物質である可能性が示唆された。 CMNVは世界の養殖場と野生の水生動物に常在しており、ヒトの健康に対する新たなバイオセキュリティリスクをもたらしている。今後は、特に主要な養殖国と消費国において、POH-VAU患者を世界的に、時系列的に広範囲にサンプリングし、地域住民におけるCMNV感染とPOH-VAUの有病率との相関関係を評価することがより有益である。
2	ウイルス感染	ProMED-mail 20260405.8731991	問題点：中国において、水生動物由来ウイルス（Covert Mortality Nodavirus）による初めてのヒト感染例が報告された。 【概要】新たにヒトにおいて感染することが認められた感染症に関する報告 気候変動や人間活動の拡大に伴い、野生動物からのヒトへのウイルス・スピルオーバーのリスクが増大し、ヒトの健康への新たな脅威となっている。持続性高眼圧性ウイルス性前部ぶどう膜炎（persistent ocular hypertensive viral anterior uveitis：POH-VAU）と呼ばれるヒトの眼疾患が、近年新たに出現しているが、その病因が不明であった。 本研究で、POH-VAUが水生動物由来ウイルスであるCovert Mortality Nodavirus（CMNV）と関連していることが明らかとなった。 CMNVは、養殖及び野生の水生動物において世界的に広くまん延している。POH-VAU患者70例を対象とした解析により、眼組織でのCMNV感染及びCMNV抗原に対する血清転換が確認された。疫学調査及びロジスティック回帰モデルによる解析の結果、CMNVへの曝露頻度、重度曝露の回数並びに曝露の重症度が、POH-VAUの発症リスクの増加と有意に関連していることが明らかになった。特に、保護具を使用しない水生動物の処理や生の水生動物の摂取が主要な曝露事象として同定され、調査対象症例の71.4%を占めていた。 さらに、マウスを用いたチャレンジ試験では、CMNV感染により眼圧上昇及び眼組織への病理学的損傷が誘発されること、また、in vitroにおいて哺乳類細胞への感染能を有することが確認され、ヒトへの病原性を支持する実験的根拠が得られた。 ノダウイルス科（Nodaviridae）には、アルファノダウイルス属（Alphanodavirus）及びベタノダウイルス属（Betanodavirus）が含まれ、これらはエンベロープを持たない一本鎖RNAウイルスである。ベタノダウイルス属（Betanodavirus）は、魚類、甲殻類及び哺乳類等幅広い宿主で報告されており、世界各地で魚類の神経壊死疾患を引き起こす複数の公認種が存在する。 本研究は、水生動物由来ウイルスが、新たに出現したヒト疾患に関連していることを示すものである。本ProMED情報はID:1に基づく報告である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
3	レンサ球菌感染	https://www.nationthailand.com/health-wellness/40062966	情報源:The Nation、2026年2月25日。 疾病管理局の発表によると、タイでは今年(2026年)、豚レンサ球菌感染によって3人が死亡し、現在までに49症例が確認されている。疾病管理局局長のMonthien Kanasawad氏は、同局において2026年1月1日から2月10日までの間に49例の感染例を確認し、感染者は5歳から90歳であったと述べた。感染者の大部分は男性で、60歳以上の高齢者が最も多く、次いで50～59歳、40～49歳となっている。最も多くの感染例が報告されている県はNakhon Ratchasimaで、Phrae、Chon Buri、Chaiyaphum、Surinがそれに続く。感染に関係する危険因子は、調理不完全な豚肉やブタの血、生の豚肉とアルコールの同時摂取、適切な防護装備なしでのブタ屠殺関連業務への従事などである。この疾病の地理的拡散を分析すると、症例数の大幅な増加が明らかになった。2025年1月1日から2月10日までの間に、19県で36例の症例が確認されたが、2026年にはBangkok、Nonthaburi、Nakhon Ratchasima、Phrae、Chon Buri、Chaiyaphum、Surin、Buriram、Roi Etなどを含む28県に拡大している。
4	大腸菌性胃腸炎	https://www.timesfreepress.com/news/2026/feb/17/hamilton-county-health-department-says-raw-milk/	情報源:Chattanooga Times Free Press、2026年2月17日。 Hamilton郡保健局は、生乳摂取に関連する特定種の大腸菌感染例が増加していると報告した。保健局広報官Joeli Pifer氏は電子メールを通じ、この症例増加はここ数週の間に発生したと述べた。同氏によると、このアウトブレイクで1歳から14歳の子供が被害を受けている。国立医学図書館発行の研究によると、当該細菌はウシの腸内細菌の自然な一部として排泄物中で発見される。ウシの排泄物に汚染されたものを食べたり飲んだりすると感染することがある。